

県内大学生が創る 奈良の未来ジャーナル

Vol. 6



— CONTENTS —

- P 2 ~ 3 令和2年度に事業を実施しました！
- P 4 ~ 5 これまでにこんな成果がありました！
- P 5 これまでの受賞政策提案一覧
- P 6 令和3年度も政策提案を募集します！

 奈良県

令和3年3月発行

県内大学生が創る奈良の未来事業とは？

奈良県では、平成24年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施しています。

この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生の皆さんから政策提案を募集し、応募いただいた政策提案のうち、公開コンペ方式による審査で選ばれた提案を事業化し、学生の皆さんにも参加いただいで事業を実施するものです。



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、政策提案の募集は実施していません。

令和2年度に事業を実施しました！

令和元年度に最優秀賞を受賞した政策提案について、県内大学生の皆さんにも参加していただき、令和2年度に県の新たな事業として実施しました。

令和元年度
最優秀賞

「柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業」

政策提案名（“規格外果実”を“規格外”のお土産に）

◆実施内容

商品化を目指して研究開発を行っている柿ワインですが、搾りカスの“酒粕”が大量に出ます。柿は“医者いらず”と言われるほど、健康にとってもいい果物です。そこで、この酒粕を用いた高付加価値スイーツの開発を行い奈良県の新しい特産品に育て、県の観光が活気づくことを目指しています。

商品化候補品の決定に向けて、酒粕を用いたスイーツの試作を行いました。そのうち評価の高かった試作品3品について、学生による試食会を開催して官能評価を行い、いずれも高い評価が得られました。

また、酒粕の製造法確立のため、適切な分離方法を検討するとともに、酒粕にフルーティな香りを付与するための酵母の開発も行いました。今後は継続して商品化候補品の選定と柿の酒粕製造法の検討を行うべく、とともに、民間企業への商品化候補品の提案を実施する予定です。



試食会の様子



試作品(カップケーキ)

◆大学生にインタビュー



近畿大学大学院農学研究所
応用生命化学専攻1年

まつお よしふみ
松尾 啓史

事業実施に参加した感想は？

まず課題となったのが、いかに“酒粕らしさ”を感じられるようにするかでした。試作品を作るにつれて私達なりに酒粕の良さを引き出せるようになり、かなり質の高い商品化候補品が作れたのではないかと感じています。また、この事業の中で技術を教えていただいたり、チームメイトの斬新なアイデアに助けられたり、様々な人の力がありこの事業を進めていくことができていると実感しました。

事業の実施に当たって一番印象に残っていることは何ですか？

チームメイトが私では思いもつかないような、お菓子を次々と作り上げていくことです。そのどれもが美味しく、今後、様々な人に食べてもらう中でどのような評価が得られるのかすごく楽しみです。

今回の経験をどのようにつなげていきたいですか？

今年度は、コロナウイルスの影響もあり計画通りにいかないところも多くありました。そういった状況の中で、今できることは何だろうかと模索しながら活動できたのではないかと感じています。この心構えを大切にしながら次年度も活動していきたいです。

令和2年度に事業を実施しました！

令和元年度
優秀賞

「**「記紀・万葉プロジェクト」2020集大成事業**」
政策提案名（和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で）

◆実施内容

短歌の本来の魅力を認識し直すことにより、様々な世代に「短歌を詠む」とを定着させて、短歌を通じた地域文化の活性化を目的に、小学生とともに現代の万葉集をつくり、これを展示するイベントを開催しました。

具体的には、小学生の皆さんからオリジナルの短歌作品を募集し、寄せられた短歌に大学生がイメージした絵や写真を付けて紹介した歌集「小学生と大学生でつくる現代の万葉集」を刊行しました。

また、「記紀・万葉プロジェクト」の集大成事業と連携し、小学生から寄せられた短歌を展示するとともに来場者と短歌づくりの楽しさなどについて語り合い、短歌の魅力の再認識に繋がりました。



短歌展示の様子
(奈良県立万葉文化館)

今回の経験をどのようにつなげていきたいですか？
奈良は万葉の時代から、歌に自らの思いをのせることが日常であった場所です。歌を詠むことへの関心が薄れた現代社会で、「教えられる古典」から「私たちの自己表現」という認識へと変わっていくよう、今後のイベントを計画していきたいです。

◆大学生にインタビュー



奈良大学文学部
文化財学科4年
おえ ひなこ
小江 陽南子

◆事業実施に参加した感想は？

コロナ禍の中で、自分にとって身近な地元への関心が高くなっているように感じました。また自作の作品が、自身の所属するコミュニティ外で人目に触れることについて、インターネットとは異なる感覚を小学生はどのように感じたでしょうか。地元や日本の歴史に親しみ、楽しむ機会がより一層増え、行ってくれたらと願っています。

◆事業の実施に当たって一番印象に残っていることは何ですか？

会場で作品を見て、またお手紙を通して、作者の小学生の皆さんから「イメージ通りの絵を付けてもらえてうれしい」「また短歌を作りたい」「保護者や来館者の方から「写真や絵があることでより想像しやすくなった」とのお言葉を頂いたことです。

令和元年度
優秀賞

「**中山間地域活力アップ事業**」
政策提案名（在来作物を用いた農山村の活性化）

◆実施内容

大和高原地域には、雑穀類に代表される様々な在来作物（モロコシ、アワ、ヒエなど）が細々と栽培されています。貴重な地域資源としての在来作物に着目し、耕作放棄地を利用した生産拡大を目指して活動しました。

本年度は、大学内の圃場で雑穀類の栽培等を体験するとともに、秋には山添村で、住民の方の協力のもと、学生による雑穀類の収穫、脱穀を行い、持ち帰った雑穀の製粉を行いました。

また、アドバイザー（大学OB等）や学生の意見を参考に、ご協力いただいた社会福祉法人の加工施設において、加工品（クッキー3種類）の試作を行っています。今後は、この加工品の商品化の検討を行っていく予定です。



アワの脱穀の様子
(近畿大学農学部圃場内)

◆大学生にインタビュー



近畿大学農学部
環境管理学科3年
のむら いっせい
野村 一誓

◆事業実施に参加した感想は？

今年度はコロナ禍により、予定していた活動がほとんどできませんでしたが、大学キャンパス内の圃場でアワ、キビ、モロコシといった雑穀の栽培を一年を通して体験することができました。山添村でも住民の方のご厚意により栽培された雑穀の収穫を体験し、高齢者にとって農業は身体的負担の大きな仕事だということを実感しました。

◆事業の実施に当たって一番印象に残っていることは何ですか？

雑穀の栽培には、春の播種に始まり夏の除草、秋の収穫、脱穀、加工と、多大の労力を要します。これだけの労力をかけて、最終的に製粉にまでこぎつけた雑穀の量が多量にも少なかったことが印象に残っています。

◆今回の経験をどのようにつなげていきたいですか？

今年度の雑穀栽培は2年目の挑戦で、昨年度からかなり改善はされたものの、まだ除草や収穫後の調製などの作業でいくつかの課題が残っています。今後、こうした課題を解決してより効率的な生産方法を模索していきたいと考えています。

これまでにこんな成果がありました！

「県内大学生が創る奈良の未来事業」は令和2年度で9年目を迎えます。その間、学生の皆様からの提案により創出された事業で、様々な成果がありました。

平成29年度
最優秀賞

「中高大連携森林学習プロジェクト事業」

政策提案名(学んで守ろう僕らの森ー中高大連携森林学習プロジェクト)

担当課:水循環・森林・景観環境部 森林整備課

◆実施内容(令和2年度)

森林の多面的機能の重要性や、林業の役割に関する理解を促進するため、県内の中高生を対象に、出張講義、森林管理体験、パンフレットの作成と配布からなる森林環境教育を大学生が中心となって行いました。

県内の高校での出張講義では、森林の多面的機能や生物多様性保全機能等についての座学と、「森林のためにできることは何か考えよう」をテーマにグループワークを実施しました。出張講義終了後には、「直接体験を通じて、林業が担う森林環境保全に関する深い理解を促すため、森林管理体験としてロープワーク体験や間伐体験等も行いました。その後、出張講義を取り上げた天然林の管理方法の一例を学んでもらうため、近畿大学キャンパス内で森林散策とクラフト体験を実施しました。また、オンラインでの課外学習では「森林を巡る新たな視点」をテーマに講演会を実施しました。

◆成果

平成30年度から毎年、県内の中学・高校への森林環境教育の出張講義や林業体験活動を行うことにより、より分かりやすく学習効果の高い森林環境教育プログラムへ見直ししました。講義の前後に行った中高生へのアンケートでは、「森林に対する興味・関心の喚起」、「森林を守る行動」の項目で学習効果がみられ、森林への理解促進を図ることができました。

林業体験の様子
(奈良県林業機械化推進センター)



令和2年には、森林環境教育における人材育成や教育システム構築への取組が評価され林野庁「2020年ウッドデザイン賞」に入賞しました。今後は、「森林環境教育実施マニュアル」やパンフレットを作成し、本事業で培った経験と中学・高校との繋がりを活かし、近畿大学の研究室を中心に中高生への森林環境教育を継続実施していきます。

平成28年度
優秀賞

「県内大学生による学習等支援事業」

政策提案名(女子大塾ー女子大生による県南部学習支援)

担当課:教育委員会 人権・地域教育課

◆実施内容(平成29年度ー令和元年度)

平成29年度から令和元年度まで、県南部・東部地域の小・中学生が、様々な教育の機会を得ることができるよう、大学生ボランティアが8市町村の小・中学生に学習支援を行いました。

3年間で県内6大学から延べ220名の大学生ボランティアの応募があり、延べ493名が活動に参加しました。

毎年7月に大学生への事前研修会、8月から12月にかけて大学生による学習等支援活動、1月に成果報告会を実施しました。

◆成果

参加した子どもからは「自分のがんばりを認めてもらった」、「大学生とまた勉強したい」、大学生からは「子どもたちから多くのことを学べた」などの感想が寄せられました。

県としての事業は終了しましたが、今後、活動を行う市町村は、大学と独自に連携していくこととなります。

技術科「プログラミング」の学習支援
(御杖村立御杖中学校)



夏休みの学習支援
(五條市立五條小学校)



これまでにこんな成果がありました！

平成27年度
最優秀賞

「若手狩猟者確保成事業」 政策提案名(女子大生ハンティングサークル(狩りガール))

担当課・食と農の振興部 農業水産振興課

◆実施内容(平成28年度)

大学生を中心としたハンティングサークルを結成し、狩猟に関する多様な活動を通して、南部地域の振興、狩猟文化の継承、若手狩猟者の確保に貢献する活動を展開しました。

野迫川村を活動の拠点とし、地元猟友会等にご指導いただきながら、山を歩き、鳥獣の生態、わな猟の基礎から獲物の解体までを学びました。さらに、狩猟文化の習得と継承のため、わな猟免許の取得や狩猟マップの作成を行いました。

また、野生鳥獣の肉を使ったレシピの開発を重ね、「奥大和ゆうゆう祭」でブースを設置してジビエ料理の提案を行ったほか、狩猟の魅力や役割を発信するため、狩猟体験ツアー等も実施しました。

◆成果

平成28年度に実施した当事業では、奈良女子大学ハンティングサークルとともに、県内イベントにおけるジビエ料理の提供や野迫川村での狩猟体験ツアー等を実施しました。



野迫川村における狩猟体験ツアー
(猟具(箱罠)について学ぶ)

事業実施時の参加者へのアンケート調査では、以前よりも狩猟やジビエ料理に対する興味が湧いたとの回答が多く得られました。

事業実施の効果もあり、奈良県における狩猟免許新規取得者数は増加してきています。

事業実施前の平成25～27年度の狩猟免許取得者数は平均175名(年延べ数)でしたが、事業実施後の平成30～令和2年度には平均216名(年延べ数)まで増加しました。

これまでの受賞政策提案一覧

平成24年度から始まった「県内大学生が創る奈良の未来事業」において、これまで最優秀賞、優秀賞を受賞した政策提案は以下のとおりです。

提案年度	賞	政策提案名	提案者 (所属・学年は受賞当時のものです。)
令和元年度 (15提案)	最優秀賞	“規格外果実”を“規格外”のお土産に	近畿大学農学部応用生命化学科4年 松尾 啓史 他3名
	優秀賞	和歌発祥の奈良で現代の「短歌を詠む」文化継承を大学生の手で	奈良大学文学部文化財学科3年 小江 陽南子 他4名
	優秀賞	在来作物を用いた農山村の活性化	近畿大学農学部環境管理学科4年 文 賀紀 他9名
平成30年度 (12提案)	最優秀賞	奈良・スタディサイクリング～自転車を用いた体験学習型地域振興～	奈良県立大学地域創造学部地域創造学科2年 天野 光生 他2名
	優秀賞	交換留学 ならto奈良～次世代に繋がる、北部・南部の小学生の交流と魅力発信～	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 数学教育専修1年 尾崎 優真 他6名
	優秀賞	これが僕らのまち図鑑	畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科3年 阿草 憲蔵 他3名
平成29年度 (16提案)	最優秀賞	学んで守ろう僕らの森～中高大連携森林学習プロジェクト	近畿大学農学部環境管理学科3年 奥芝 理那 他2名
	優秀賞	小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト	奈良教育大学教育学部教科教育専攻 保健体育専修3年 小田 陽介 他2名
	優秀賞	留学生による奈良の旧正月フェスティバル	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻1年 林 君暎 他9名
平成28年度 (23提案)	最優秀賞	農地の窓口	近畿大学農学部農業生産科学科3年 中井 隆教 他2名
	優秀賞	Sight Feeling NARA感じてみっけ! あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻1年 金村 麗華 他5名
	優秀賞	女子大塾～女子大生による県南部学習支援～	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 小澤 初葵 他5名

提案年度	賞	政策提案名	提案者 (所属・学年は受賞当時のものです。)
平成27年度 (18提案)	最優秀賞	緊急課題!奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学医学部医学科6年 峯 昌啓 他8名
	最優秀賞	女子大生ハンティングサークル(狩りガール)	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻1年 竹村 優希 他6名
	優秀賞	不登校の子どもたちに大学生ができて～大学間の垣根を越えて～	帝塚山大学大学院心理科学研究科 心理科学専攻2年 酒井 希恵 他9名
	優秀賞	かえろう!十津川～空き家のDIY改修&活用プロジェクト～	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻1年 森 里沙 他9名
平成26年度 (20提案)	最優秀賞	楽しく健康!健康(けんぎょう)農業で遊休地を有効活用	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻1年 土佐野 美裕 他5名
	優秀賞	無病保菜～野菜パワーで元気100%な奈良県へ!～	帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科3年 高瀬 美桜 他9名
	優秀賞	奈良栄養クリニック設立計画	奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科4年 祝田 景子 他4名
	優秀賞	卒点を灯す～春日奥山から未来への文化継承の地	奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻2年 大石 茉由佳 他2名
平成25年度 (13提案)	最優秀賞	科学の旅～シーズンフリーのワンストップサイエンスツーリズム～	奈良教育大学教育学部学校教員養成課程 理数生活科学コース4年 萩 奈津希 他5名
	優秀賞	自然の恵みリスタート事業	奈良女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程環境学専攻1年 濱川 真衣 他4名
	優秀賞	大学生がつくる幼児のためのスポーツイベント	奈良教育大学教育学部保健体育専修3年 赤木 誠五 他2名
平成24年度 (27提案)	最優秀賞	泊まってみ奈良?～町屋ステイで奈良を知る～	奈良県立大学地域創造学部1年 横田 紘大 他8名
	優秀賞	奈良県産材製の児童用学習机・椅子・教卓の普及	奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年 笹川 祐里 他3名
	優秀賞	Meet 20's 絆 プロジェクト～20歳の若者の出会って絆をつくる	帝塚山大学経営情報学部経営情報学科3年 森崎 直人 他7名

令和3年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」 県内大学生の皆さんから政策提案を募集します!

令和3年度も県内大学生から県政の課題に関する政策提案を募集します。公開コンペ方式の審査により選考された優秀な提案については、県内大学生に参加・参画いただいて、事業を実施します。

募集から事業実施まで、下記のスケジュールで進めていく予定です。

【スケジュール(予定)】

(令和3年度)

4月上旬～ 政策提案募集

6月上旬

6月中旬 事前審査(書類選考)

8月下旬 公開コンペ・表彰

9月上旬～ プロジェクトチームによる事業化検討、予算要求

(令和4年度)

4月～ 県内大学等との協定締結、事業実施

募集の詳細につきましては、令和3年4月の募集開始時に県ホームページで公表するとともに、各県内大学等に向けてご案内いたします。学生の皆様のアイデアを県の政策に反映できる良い機会ですので、ふるってご応募ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大の情勢により、内容を変更する可能性があります。

県内大学生が創る奈良の未来ジャーナル Vol.6

令和3年3月

奈良県 総務部知事公室 政策推進課

〒630-8501

奈良市登大路町30番地

TEL: 0742-27-8472

URL: <http://www.pref.nara.jp/28210.htm>



< 表紙で使用了た写真について >

上段左: 刊行した「小学生と大学生でつくる現代の万葉集」を持つ大学生(「記紀・万葉プロジェクト」2020集大成事業) 上段右: 柿酒粕を用いた試作品作成の様子(柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業) 下段左: アワのモミスリの様子(中山間地域活力アップ事業) 下段右上: 柿酒粕を用いた商品化候補品の試食会の様子(柿の酒粕を用いた特産品開発推進事業) 下段右下: 短歌展示に関する打ち合わせの様子(「記紀・万葉プロジェクト」2020集大成事業)